

# 経済史Ⅱ シラバスと若干の注意

2017年4月6日  
小野塚 知 二

## I シラバス

### 講義の要項・目的

経済史は**現在(いま)**を理解するための有力な方法の一つです。現在の制度、慣行、政策、市場、組織などがいかにして形成され、変容してきたのか、つまり、いまの経済の**起源と来歴**を知ることと、いまとは異なる**経済・社会と比較**して現在の**経済・社会**を相対化すること、これら二点がこの講義の基本的な眼目です。

われわれの生きる現在は**近現代**の末端に連なっていますから、現在を社会科学的に知ろうとする際に重要なことは、近現代の**社会・経済**の特質を、その前史や成立過程とともに理解することです。すでに、経済史Ⅰで、経済史学の基本的な概念と方法、および**前近代**の**社会・経済**の特質について講ぜられたはずなので、この科目では経済史Ⅰを受けて、経済史学の基礎を完成させることを目的とします。本講義のⅠ導入では経済史学の課題と基本的な方法を簡単に復習し、Ⅱでは前近代から近代への長い移行期(**近世**ないし**初期近代**)の特質を、Ⅲでは近代の**市場経済・資本主義・産業社会・市民社会**の構造と動態を説明し、併せて、近現代の**資本主義・市場経済**の生成と維持に必要な**制度的・自然的な条件**を理解することをめざします。Ⅳ結語では**経済史的観点**から**現在**を知ることの意味を論じます。

なお、現代(≒20世紀)については経済学部専門科目2の現代西洋経済史、現代日本経済史などで詳細に講ずるので、本講義では現代は、近現代というように、近代と一括できる限りでの現代しか扱いません。

### 授業計画

I 導 入 —経済史とは何か：際限のない欲望、効率性、分業—

II 近 世

- 1 総説：前近代から近代への移行
- 2 市場経済と資本主義
- 3 近世の市場と経済活動
- 4 近世の経済と国家 —絶対王制と重商主義—
- 5 近世の経済規範

III 近 代

- 1 産業革命
- 2 資本主義の経済制度
- 3 国家と経済
- 4 自然と経済
- 5 家と経済
- 6 資本主義の世界体制
- 7 近代と現代

IV 結 語 —いまを知ること—

### 教科書

なし

### 参考文献

馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房、2012年、金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会、2010年。このほかの文献に

については講義開始後にリストをウェブ上に公開し、また、必要に応じて随時案内します。

## その他

経済史Ⅰをすでに履修していることが望ましい。

## Ⅱ 配布物

履修上の注意、レポートの案内、その他、講義内容に直接関わらない文書はすべて、ウェブ上([http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/educational\\_j.html](http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/educational_j.html))に随時公開します(紙ベースでは配布しません)ので、適宜、参照・印刷してください。宿題と講義評価(諸君の記入後に回収する文書)は紙で配付します。

## Ⅲ 質問と相談

質問は講義中随時受け付けます。時間をとらずに簡潔に答えられること(たとえば私の言い誤りや書き間違いなど)だけでなく、講義内容に関わるさまざまなことがらも随時質問して構いません。疑問点とそれに対するわたしの応答はできるだけ全員が共有した方がいいので、躊躇せずに、随時、質問する習慣を身につけて下さい。

個人的な学習の相談等は講義終了後受け付けます。ただし、講義後に時間の切迫した所用があるときは失礼することもありうるので、以下の方法を用意しておきます。

(1) 私の研究室(本郷の経済学研究科棟9階910)を訪ねていただくのが、文献等もその場で案内できるので最も適切な方法だと思います。他に用事がない限り本郷には月曜から土曜まで大概来ていますが、講義・会議・その他の用務で研究室にいないことも多く、いても多用で対応できないこともあるので、e-mail([onozukat@e.u-tokyo.ac.jp](mailto:onozukat@e.u-tokyo.ac.jp))あるいは郵便(〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学大学院経済学研究科・経済学部 小野塚知二宛)で事前に連絡して日時を決めておいた方が確実でしょう。

(2) 質問・相談は郵便かe-mailでも受け付けます。すぐに返事を書けない場合もあるし、直に会うのと違って何度かやりとりをしないと埒のあかないこともしばしばなので、これは決して手軽な方法ではありません。

(3) 多くの諸君に共通に関係しそうな重要な質疑応答はホームページ上に公開します。

## Ⅳ その他の注意点

私語(および寝言・鼾・歯軋りなど騒音を発する行為)は厳に慎んでください。静かな居眠りや内職が目立たないようにする限り、特に咎めませんが、むろん居眠りや内職を推奨するつもりはありません。また、講義中の出入りや携帯電話なども目障り耳障りなので慎んでください。

このほか、経済学部カリキュラムにおける経済史Ⅱの位置、参考文献と講義の関係、単位取得の条件、成績評価の方法、任意のレポート、高校の日本史・世界史との関係、講義評価等々については、後日、あらためて案内します。